

実施日：10月13日（2校時）	
領 域：総合的な学習の時間	
取組名：誰もが過ごしやすい社会を考えよう	
対 象：4年生	実施場所：教室、体育館
ア ねらい <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害について実体験を通して理解を深めることで、誰もが過ごしやすい社会にするため、自分ができることを考え、より良い社会をつくっていかうとする態度を育てる。 ・ 外国にルーツをもつ児童を含むすべての児童が、これらの活動を通して自分の力で伝え合い、共に伸びる集団づくりを行う。 	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 <p>1学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パラスポーツについて調べ、様々な障害について学ぶ。 <p>2学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 車椅子体験やアイマスク体験などの擬似的体験を通して、自分で調べたい課題を設定し、課題解決型の学習のプロセスを通して、障害のある人の願いに気づき、自分にできることは何かを考える。 ・ ゲストティーチャー前田さんや車椅子バスケットボールをされている方々と触れ合い、障害のある人と共生していかうとする心情や態度を育てる。 <p>3学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 誰もが楽しめるスポーツ（ゆるスポーツ）について学び、人々のつながりの大切さや誰もが過ごしやすい社会について考える。 	
ウ 連携先：家庭、ゲストティーチャー前田さん、車椅子バスケット体験ひめパラの方々	
エ 連携にむけての取組 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学年便りや学級通信でこれらの取組を紹介して、保護者に人権について啓発している。 ・ ゲストティーチャー前田さんやひめパラの方々に車椅子での日常生活の話聞き、障害のある人の願いを知る。 	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行う上での工夫点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前に隣接学年での単元構想や指導案検討を行う。 ・ 授業後に事後研修を行い、成果と課題について話し合う。 	
カ 評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 行動観察 ・ ワークシート【別紙⑪】 ・ 発表内容（模造紙等）【別紙⑫】 	
キ 成果 <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマについて調べたり、発表したりすることを通して、外国にルーツをもつ児童を含むすべての児童が、自分の考えを伝え合い、友だちの良い意見に気付いた。 ・ 車イスやアイマスクなどの疑似体験やひめパラの方々との触れ合いを通して、障害のある人が抱える課題を身近に感じた。【別紙⑬】 ・ 介助する体験を通して、困っている人を見かけた時に、自分ならどうするか、何ができるかを考えた。 	
ク 課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時までに障害のある人について調べていたので、これ以外の人々（子ども・妊婦さん・高齢者など）や場所（学校・店・公共施設など）に焦点を当てて考える方が、本時の課題「誰もが・・・」に迫ることができたのではないかと。 ・ 学んだことを生かし、いつ・誰に・どの場で何ができるのかを考え、実践したことを評価しながら、外国にルーツをもつ児童を含む全ての児童が自他の良さを認め合い、共生していく喜びを味わわせたい。 	